保育だより

第６号
令和８年 10 月 30 日
庄和すずらん幼稚園
園長　戸田　千里

★繋がる心

秋の深まりを感じる季節となりました。「暑い、暑い！」と嘆いていた日々から一転、今度は「寒～い！」という声が飛び交うことになるのでしょうか。とはいえ、背中を丸めてポケットに手を入れて過ごすような生活にならないように、季節に応じた楽しみ方を活動に織り交ぜていきたいものです。

“子ども達は行事で育つ”という信念のもと、すずらん幼稚園ではたくさんの行事を取り入れています。特に１年間の内、期間も長く比較的過ごしやすい２学期に多くの行事が盛り込まれていますが、その皮切りになったものが「運動会」といえるでしょう。本番を迎えるまでは雨続きの天候でしたが、本番はまさに運動会日和と呼べる青空のもと、子ども達は力いっぱい走り、協力し合い、そして演じて、その姿をお家の人に見てもらい、金メダルを胸に帰宅し、各ご家庭でお話も弾んだのではないでしょうか？

さてお話はここからです！運動会が終わり、大きな行事が終了！やった～！だけでは、物足りません。行事をただ単に“こなす”だけになってしまいます。ここから何が育っていくのでしょう？年長組のリレーや組体操を見た年少組・年中組の子ども達の心に『やってみたい！』の気持ちが芽生えたようです。運動会後の年中組の運動遊びでリレーをやってみたり、年少組がミニミニ運動会を開催して、なんとリレーに挑戦（クラス対抗ではありませんが）してみたり…。なんてすごい事なんでしょう！と私はその姿をみて感動を覚えました。運動会の練習中にも、年長組の遊戯や競技を目にした年下の子ども達の心の中に、憧れの気持ちが生まれていた状況での運動会でしたので、大声援の中の年長組の雄姿に心が動いたのかもしれませんね。その後の朝の自由遊びの時間に、年少組の子どもが「バトン貸してください」と言いに来る姿もありました。園庭では年長組も一緒になってトラックを一周する姿が見られ、一つの行事を通して繋がっていく心こそが“行事で育つ”ということなのだと、改めて感じることができました。やらされるのではなく、自らやってみよう・やってみたい！の気持ちを普段の生活の中にも生かせるようになれば、多くの場面で意欲にも繋がります。

先日は２日間に分けてお芋掘りに行ってきました。土の感触をそのまま味わうために、子ども達は素手でお芋を掘ります。引っこ抜くのではなく「掘る」のです。お芋の姿が見えても引っ張っただけでは抜けません。だから「掘る」のです。根気が必要です。お芋の全様が見えない状態でひたすら掘り続けると、やっと対面できるさつま芋に一喜一憂。掘ってきたお芋を焼き芋用とふかし芋用に分け、焼き芋パーティーの日を心待ちにします。焼き芋パーティー当日はあいにくの強風のため全員で外で食べるということはできませんでしたが、それでも園庭の真ん中で、もみ殻のお布団の中で焼かれた焼き芋や、かまどのお鍋の中でふかされたお芋を食べ比べして、見学の保護者の方々にもおいしさのおすそ分けができ、笑顔あふれる一日になりました。このさつま芋の苗は春に年長組が植えに行ってくれたものです。おいしいねの思いをみんなで共有できると、園全体に幸せな空気が流れます。食に対しての意欲が育っていくと、繋がる活動＝繋がる心という方程式が出来上がりますね。